

愛知県で確認されたセマルガムシ属の一種について

林 成多¹⁾・池竹弘旭²⁾・戸田尚希³⁾

¹⁾ 〒 691-0076 出雲市園町 1664-2 ホシザキグリーン財団

²⁾ 〒 452-0803 名古屋市西区大野木 4-42-2

³⁾ 〒 457-0001 名古屋市南区平子 2-24-16

Notes on undetermined *Coleostoma* found from Aichi Prefecture, Honshu, Japan

Masakazu HAYASHI, Hiroaki IKETAKE and Naoki TODA

はじめに

セマルガムシ属 *Coelostoma* はハバビロガムシ亜科に分類される、半水生のガムシである。従来、日本からは3種の分布が知られていて、旧北区に広く分布するヒメセマルガムシ *C. (Coelostoma) orbiculare* (Fabricius, 1775)、東アジアから東南アジアに分布するセマルガムシ *C. (Holocoelostoma) stultum* (Walker, 1858)、国内では八重山のみに分布するニセセマルガムシ *C. (Coelostoma) fallaciosum* d'Orchymont, 1936 がいる（佐藤, 1985; Watanabe, 1993; 林, 2008）。

このたび、池竹と戸田が愛知県において、これら3種とは異なる種（図1）を発見し、林が検討を行ったので報告する。

発見の経緯

名古屋市内の「大根池の池干し」の事前調査の際、矢崎充彦氏や池竹が採集した。本土産の種とは交尾器形態が異なることに池竹が気づき、林に確認を求めた。その話を聞いた戸田は、大根池で何度か探したが発見できなかった。また、戸田が所蔵する標本の再調査を行い、日進市で得られた標本を確認した。日進

市では、日進市史の自然調査が進行しており、追加標本が得られている。これらの過程で得られた標本を林がまとめて検討を行った。

形態的な特徴

日本産のセマルガムシ属は、いずれも黒色で光沢があり、背面は丸く、細かな点刻に覆われている。本土に分布するセマルガムシとヒメセマルガムシは、体長での区別には変異が重複するため問題があり、複眼の大きさとで区別すべきである（林, 2008）。今回確認された種は、体長は4.0 mm前後で小型、複眼が小さくヒメセマルガムシに似ているが、雄交尾器（図1B）の側片や中央片の形状が明瞭に異なっている。形状はむしろニセセマルガムシに近い（図2）。

複眼のサイズのみで同定した「ヒメセマルガムシ」には本種が

混じっている可能性がある。なお、ホシザキ野生物研究所に収蔵されている島根県産ヒメセマルガムシの交尾器を再度、確認してみたが、本種はみつからなかった。

種の同定について

本種の雄交尾器の形状から、日本産の4番目のセマルガムシ属の種である

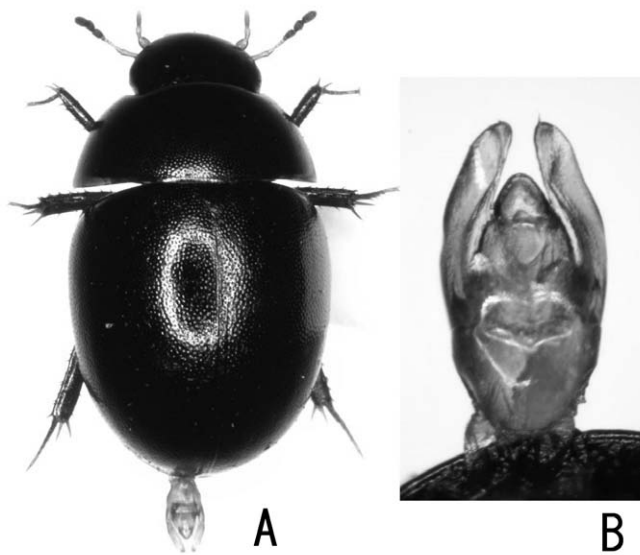


図1. コガタセマルガムシ（仮称）*Coelostoma* sp.の標本写真。A, 雄の背面；B, 雄交尾器。スケールなし。

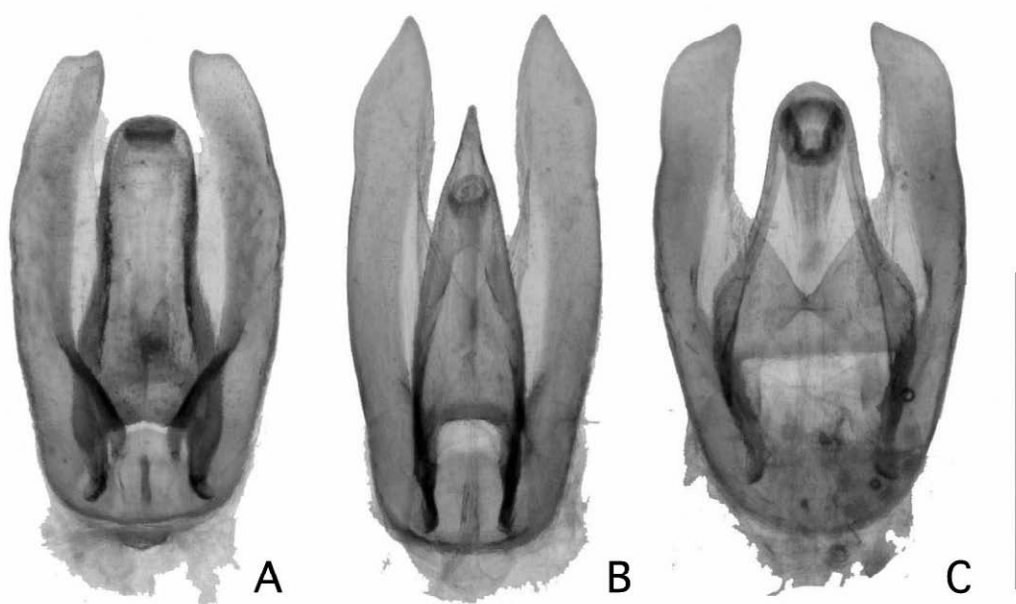


図2. 日本産セマルガムシ属既知種の雄交尾器。A, セマルガムシ; B, ヒメセマルガムシ; C, ニセセマルガムシ。スケール0.5 mm (共通)。林 (2008) を改変。

ことは明らかである。予想として、すでに海外で記載された種である可能性が高いと考え、記載論文（例えば、d'Orchymont, 1936; Mouchamps, 1958; Fikáček, 2010; Fikáček *et al.*, 2010 など）を入手して検討をした。特に d'Orchymont (1936) に示された *C. fabricii* (Montrouzier, 1860) の交尾器が似ているため、この種の可能性であることを考えた。しかし、Fikáček (2010) が再記載をしており、一致しないことが明らかになった。

そこで、セマルガムシ属の分類に詳しい、チェコの Fikáček 博士に写真を送り、確認を依頼したところ、未記載種であること、中国で同種らしい種を確認しており、記載論文を準備しているとのことだった。しかし、現在のほかの研究で忙しいため、すぐには論文を書けないとも述べていた。

結論として、本種は未記載種であることが判明した。Fikáček 博士の記載論文がそう遠くない時期に発表されることを期待したい。本来であれば、正式に記載が行われてから発表すべきなのかもしれないが、セマルガムシ属、特にヒメセマルガムシの同定に注意する必要性が生じることも考え、報告することにした。

採集記録

雄交尾器を確認した標本：1♂, 愛知県名古屋市天白区天白町島田 (大根池), 24. IX. 2011, M. Yazaki leg. 1♂, 愛知県日進市岩藤町大清水湿地, 9. VII.

2011, 戸田尚希 leg. 1♂, 愛知県日進市岩藤新池, 4. viii. 2011, 田中多喜彦 leg.

雄交尾器を確認していないが同種とみられる標本：1ex., 愛知県名古屋市天白区天白町島田山ノ根 (大根池), 2. V. 2011, H. Iketake leg. 1♀, 愛知県名古屋市天白区天白町平針荒池下, 25. VII. 2009, LT, 戸田尚希 leg. 1♀, 愛知県日進市岩藤町大清水湿地, 9. VII. 2011, 戸田尚希 leg. 4exs., 愛知県日進市岩藤町大清水, 19. V. 2012, 矢崎充彦 leg. 2exs., 同上地点, 15. VII. 2012, 矢崎充彦 leg.

標本は筆者らが保管している。

和名について

未記載種に和名を付けることには問題があるが、ないことでも呼称の混乱が起こるため、本報告では本種をコガタセマルガムシ (仮称) と呼ぶことにする。交尾器形態の特徴を明らかにしているため、この仮称を付けることによって呼称の混乱は起きないと考えている。

生息環境について

コガタセマルガムシ (仮称) の生息地である名古屋市天白区の大根池は、住宅地の中のため池である。ブラックバスなどの外来種は少ない。日進市の生息地は、岩盤上に水が浸みだしているような環境に草が生えている状態で、いわゆる東海丘陵要素の湿地である。生息地の近くの灯火にも飛

来することが確認されている。

謝辞

Martin Fikáček 博士には本種の写真を確認いただいた。愛媛大学ミュージアムの吉富博之博士、北海道大学大学院農学研究院の簗島悠氏には文献についてご教示をいただいた。また、矢崎充彦氏と田中多喜彦氏が採集した標本を検討させていただいた。これらの方々に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- d'Orchymont, A., 1936. Révision des "*Coelostoma*" (s. str.) non américains, Mémoires du Musée. Royal d'Histoire Naturelle de Belgique, 2(7): 1-38.
- Fikáček, M., 2010. Hydrophilidae: Sphaeridiinae (Coleoptera).

JÄCH & BALKE (eds.): Water beetles of New Caledonia, part 1: 323-364.

Fikáček, M., Elio Gentili and Andrew E. Z. Short, 2010. Order Coleoptera, family Hydrophilidae. Arthropod fauna of the UAE, 3: 135-165.

林 成多, 2008. 日本産セマルガムシ属の同定と分布. ホシザキグリーン財団研究報告, (11): 93-102.

Mouchamps, R., 1958. Notes sur quelques *Coelostoma* (Brulle) (Coleopteres, Hydrophilidae) principalement africains 2me note). Bull. Inst. Royal Sc. Natur. Belg., 34: 1-36.

佐藤正孝, 1985. ガムシ科 Hydrophilidae. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝 (編) 原色日本甲虫図鑑 II: 209-216, p. 38-39. 保育社, 大阪.

Watanabe, N., 1993. Notes on the Japanese species of the genus *Coelostoma* Brullé (Coleoptera, Hydrophilidae). Elytra, Tokyo, 21(1): 151-159.

(2013 年 2 月 25 日受領, 2013 年 3 月 12 日受理)

【短報】香川県でマダラコガシラミズムシを採集

マダラコガシラミズムシ *Haliphus sharpi* Wehncke は、環境省の第四次レッドリストにおいて絶滅危惧Ⅱ類に指定されている (環境省, 2012). 四国でも愛媛県の 1959 年の採集記録があるのみで (酒井, 2003), 絶滅が心配される状況である. 筆者は 2012 年に香川県で本種を採集したので, 記録を報告する.

1ex., 香川県まんのう町中通野口, 28.VII.2012, 筆者採集.

本個体は, 自動販売機の灯火で採集された. 当地は里山環境が残されているためか, 様々な甲虫類が灯火に飛来する. 当日は水生甲虫が多く飛来しており, 本種の他に, キスジミゾドロムシやイブシアシナガドロムシ, ツヤドロムシ属のヒメドロムシ科甲虫や, キイロコガシラミズムシ *Haliphus eximius* Clark が多数 (採集したのは飛来していた半分程度だが, それでも 40 個体以上) 飛来していた. キイロコガシラミズムシ以外のコガシラミズムシ (背中に斑紋の認められる個体) も注意深く探したが, マダラコガシラミズムシは本個体 1 頭しか発見できなかった.

キイロコガシラミズムシも本種同様, 環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているが, 香川県では島嶼部を含む各地から記録されており

(出嶋, 2007), 灯火に飛来することも稀ではない. それでも, ここまで多数のキイロコガシラミズムシが灯火に飛来したのはこれまでに見たことがなく, 2012 年の香川県は, コガシラミズムシ類の発生に適した条件が揃っていたことがうかがえる. なお, 追加記録を求めて同年 8 月にも何度か同所を訪れたが, いずれの日もキイロコガシラミズムシが数個体見られたのみで本種は得られなかった.

末筆になったが, 文献についてご教示いただいた出嶋利明氏に厚くお礼申し上げる.

引用文献

出嶋利明, 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物 (34): 83-96.

環境省, 2012. 環境省第 4 次レッドリスト昆虫類. http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=20554&hou_id=15619

酒井雅博, 2003. マダラコガシラミズムシ. 愛媛県レッドデータブック 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物: 171.

(藤本博文 769-0213 綾歌郡宇多津町大字東分 1535-1 B-101)



図1.香川県産マダラコガシラミズムシ.